

⑫ 特 許 公 報 (B 2)

昭62-412

⑬ Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公告 昭和62年(1987)1月7日

F 24 C 15/08

A-7116-3L

発明の数 1 (全5頁)

⑮ 発明の名称 加熱調理器

⑯ 特 願 昭59-117047

⑰ 公 開 昭60-16240

⑱ 出 願 昭55(1980)11月7日

⑲ 昭60(1985)1月28日

前実用新案出願日援用

⑳ 発 明 者 平 井 聖 純 門真市大字門真1006番地 松下電器産業株式会社内

㉑ 出 願 人 松下電器産業株式会社 門真市大字門真1006番地

㉒ 代 理 人 弁理士 中尾 敏男

審 査 官 松 永 孝 義

㉓ 参 考 文 献 実公 昭55-20966 (JP, Y2)

1

2

㉔ 特許請求の範囲

1 キヤビネットと、このキヤビネット内に挿脱自在に収納される加熱調理器の本体と、前記キヤビネット内に本体を案内する案内レールと、前記本体底面に設けられたレールと、前記本体の側面に設けられ、本体をキヤビネット内に保持する係止金具と、前記キヤビネットの前面に設けられた金具とを備え、前記レールには本体底面の排気口に面する開口部を設け、しかも前記レールと案内レールは嵌合することによつて排気ダクトを構成し、更に前記本体は、前記キヤビネット内に挿入された状態で前記係止金具と前記金具が係合してキヤビネット内に保持されることを特徴とする加熱調理器。

発明の詳細な説明

本発明はキヤビネットに収納して使用する加熱調理器の本体の設置金具の改良に関するものである。

従来この種の加熱調理器の本体の設置金具は、キヤビネット内に設けられた案内レールと本体の底面に設けられたレールが係合していても、本体をキヤビネットの前面に引き出したとき、キヤビネットの案内レールから本体のレールがはずれないためキヤビネット内に本体を設置する場合もまた、アフターサービス等で本体をキヤビネットから取り外す場合も非常に不便であつた。

本発明はこのような従来の加熱調理器の本体の

設置金具の欠点を解消し、しかも排気効率を良好にするものである。まず従来の欠点を解消する構成について第1から第10図にもとづいて説明する。

第1図において、1は加熱調理器の本体2を収納するキヤビネットで、前面に本体2の飾り枠3が設けられている。この飾り枠3は第4図に示すように下方に吸気口4と上方に排気口5が設けられている。第2図において6はキヤビネット1の前中棧7と後中棧8に係止して設けられた案内レールで、第7図に示すように略コの字状に形成され一端に取付ラグ9、他端につめ部10が設けられている。11はキヤビネット1の前面に設けられた金具で、本体2の側面に設けられた係止金具

12と係合する。13は本体2の底面に設けられたレールで、第8図に示すように略コの字状に形成され一端に案内レール6の取付ラグ9と係合する取付ラグ14が設けられ、他端に案内レール6のつめ部10と係合する嵌合部15が設けられている。16はキヤビネット1の前中棧7に設けられ本体2内に冷却空気を供給する吸気口である。

17は本体2内で加熱された空気を排出する排気ガイドである。

本発明は上記構成に加えてレールおよび案内レールの構造を変えることにより、キヤビネット収納型の加熱調理器において問題となり易い排気効率を向上するものであり、以下その一実施例につ

3

4

いて図面とともに説明する。

すなわち、本発明の一実施例としては、案内レール 6 を第 1 1 図に示すように略 L 字状に形成し、本体 2 の底面に設けられたレール 1 3 を第 2 図に示すように形成して、本体 2 の底面からトラ
5 ンスやマグネトロンを冷却した空気が排出される排気口にレール 1 3 の開口部 1 8 が面するように構成し、案内レール 6 とレール 1 3 が嵌合することによって構成される排気ダクトにより排気が本体 2 の前面へ排出されるものである。

このような構成からなる本実施例の加熱調理器は、キャビネット 1 内の前中棧 7 と後中棧 8 に案内レール 6 を係止して設け、この案内レール 6 に本体 2 の底面に設けられたレール 1 3 を係合して
15 キャビネット 1 内に本体 2 を挿入する。そしてキャビネット 1 の前面に設けられた金具 1 1 と本体 2 の側面に設けられた係止金具 1 2 を係合して本体 2 を固定するかまたは、キャビネット 1 内に設けられた案内レール 6 の取付ラグ 9 と本体 2 のレール 1 3 に設けられた取付ラグ 1 4 を係合して固
20 定してもよい。

また本体 2 をキャビネット 1 内から取り出すときは、この本体 2 をキャビネット 1 の前面に引き出せば互いに係合している案内レール 6 と本体 2 の底面に設けられたレール 1 3 が簡単にはずれて、
25 キャビネット 1 の前面に本体 2 が取り出される。このようにキャビネットに挿脱自在に設けられた本実施例の加熱調理器は、キャビネット 1 内に設けられた案内レール 6 と本体 2 の底面に設けられたレール 1 3 を挿脱自在に設けることによつて、
30 本体 2 をキャビネット 1 内に設置しやすく、また、アフターサービスなどで本体 2 をキャビネット 1 内から取り出すのにも便利である。また本体 2 をキャビネット 1 に収納して使用するときは、キャビネット 1 の前面に設けられた金具 1 1
35 35

と、本体 2 の側面に設けられた係止金具 1 2 で本体 2 が固定されているため安全である。その上、案内レール 6 とレール 1 3 によって構成される排気ダクトにより、温度の高い排気が本体 2 内に吸気されることなくしかも、排気経路が確保されており、排気効率が極めて高くなる。

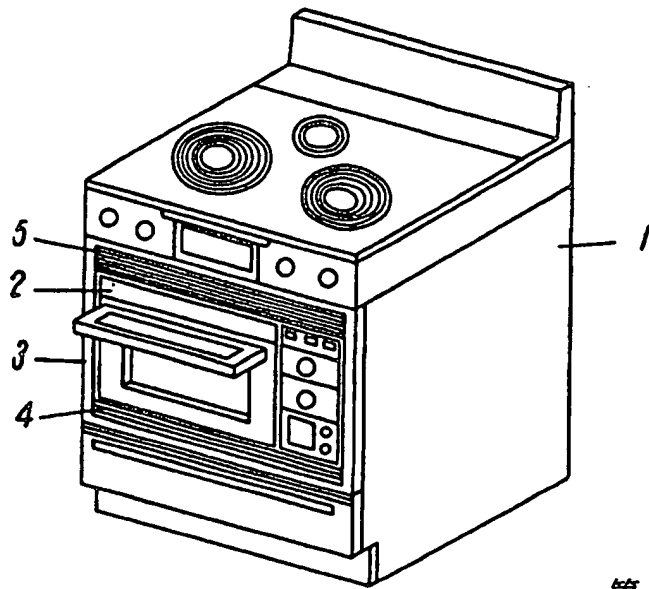
以上のように本発明の加熱調理器は、キャビネット内に設けた案内レールと、本体の底面に設けたレールを係合させて互いに挿脱自在に設け、
10 かも案内レールとレールにより排気ダクトを構成することにより、本体をキャビネット内に設置しやすく、また、アフターサービス等で本体をキャビネットから取り出すのにも非常に便利であるとともに排気効率が極めて良いものである。しかも使用に際しては本体とキャビネットが互いに固
15 定されているため安全な加熱調理器である。

図面の簡単な説明

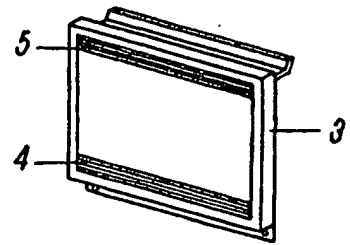
第 1 図は本発明の一実施例を示す加熱調理器の本体がキャビネットに挿入された状態を示す斜視図、第 2 図は従来の加熱調理器の問題点を解消する加熱調理を説明するために示すキャビネットの斜視図、第 3 図は同加熱調理器の本体を示す斜視図、第 4 図は同飾り枠を示す斜視図、第 5 図は同
25 キャビネットの案内レールと本体のレールの嵌合状態を示す正面図、第 6 図は第 5 図の側面図、第 7 図は同キャビネット内に設けられた案内レールを示す斜視図、第 8 図は同本体の底面に設けられたレールを示す斜視図、第 9 図は本発明の一実施例を示すキャビネットの斜視図、第 10 図は同加熱調理器の本体を示す斜視図、第 11 図は同案内
30 レールの斜視図、第 12 図は同レールの斜視図である。

1 ……キャビネット、2 ……本体、6 ……案内レール、11 ……金具、12 ……係止金具、13
35 ……レール。

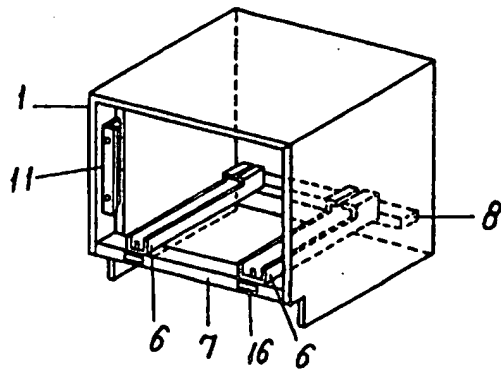
第 1 図



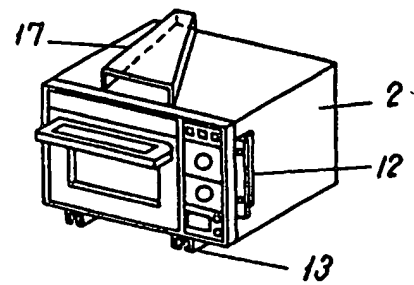
第 4 図



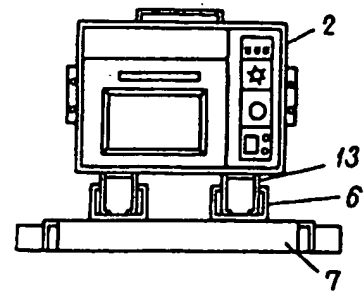
第 2 図



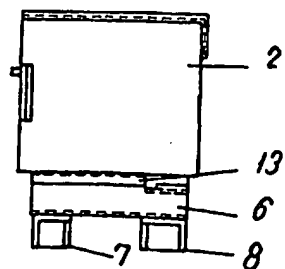
第 3 図



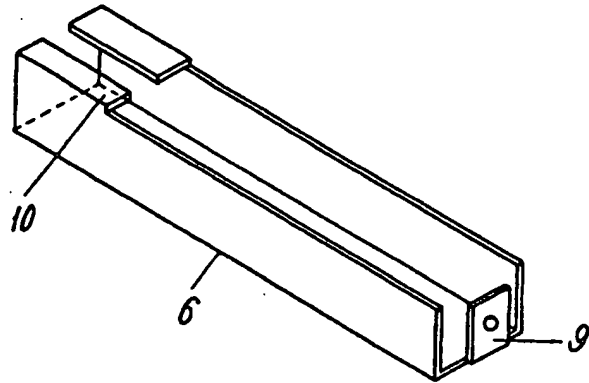
第 5 図



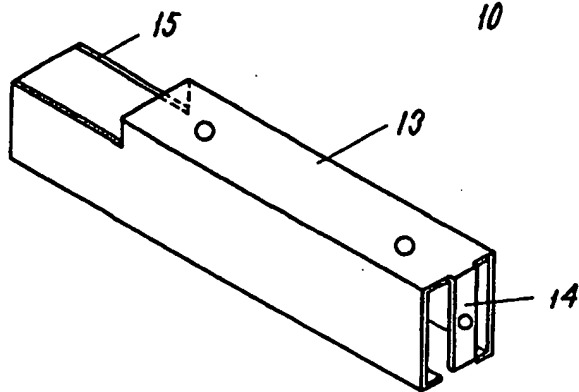
第 6 図



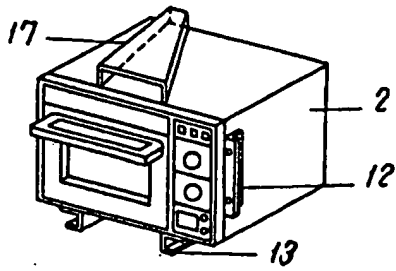
第 7 図



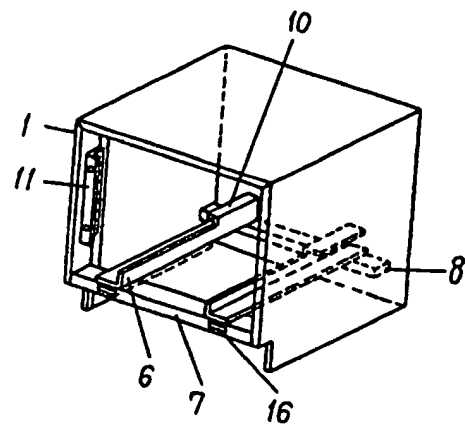
第 8 図



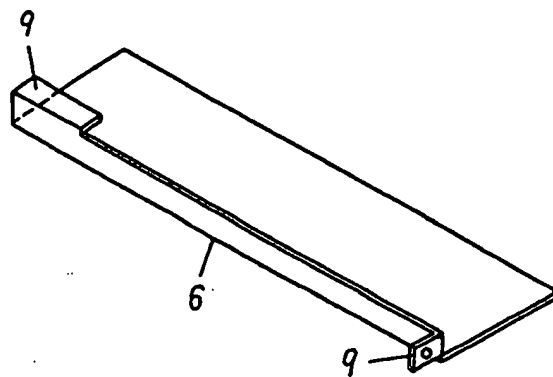
第 10 図



第 9 図



第 11 図



第 12 図

